東高根遺跡

―公園に眠る古代遺跡―

川崎市市民ミュージアム主任学芸員
小薬　一夫
2018/1/28

1.遺跡と東高根森林公園

発見から保存へ
　住宅予定地から公園へ
　公園散策
東高根遺跡の調査成果
　第１次調査　昭和 44 年（1969 年）/第２次調査　昭和 45 年（1970 年）
　　時代　縄文時代
　　弥生時代後期（1～3 世紀）から古墳時代（4～７世紀）
　　奈良時代（8 世紀）ころまでの集落跡
　　発見された住居跡数
　　６２軒　全体で 100～１５０軒が予想される
試掘調査と地下レーダー探査
周辺の遺跡　遺跡の歴史は開発の歴史
　東名と墓地と宅地開発　緑ヶ丘霊園内遺跡　伊屋之免遺跡　下原遺跡　長尾鯉坂遺跡

2.東高根遺跡と弥生時代

村の構造
　住居と墓
弥生のコメづくり
　コメづくりの前に　ダイズとアズキの発見
　籾痕の検出　石包丁に木包丁
　奈良県　唐子・鍵遺跡、海老名市　河原口坊中遺跡へ

3.遺跡の今後

遺跡は県指定史跡、シラカシ林は県の天然記念物として公園の中で大切に保存保護
古代植物園の活用　遺跡と植物のコラボレーション
普及啓もう活動　より詳細な実態調査　部分的な発掘調査の必要性

東高根遺跡

調査の経過

今から40年ほど前、この東高根一帯に大規模な宅地造成の計画が立てられました。そこで、1969（昭和44）年から1970（昭和45）年にかけて、現在の古代芝生広場の下に、昔の人々の生活の跡があるかどうかを調べる発掘調査が行われました。この時の調査は試掘調査といって、幅1mほどの細い溝を何本も掘って、土器や家の跡があるかどうかを調べるものでした。

その結果、現在の芝生の1m下に、古代の大きな村が埋まっていることがわかりました。ただし、全部を掘ったわけではないので詳しいことは分かっていませんが、神奈川県を代表する古代の大規模な集落跡であることが、はっきりと確認されていることから1971年に県の史跡に指定されています。現在、発掘された土器の一部を川崎市からお借りして、ﾊﾟｰｸｾﾝﾀｰ内で展示しています。

村の様子

この台地上に埋もれているのは、今から2.000年前の弥生時代（1～3世紀）から古墳時代（4～7世紀）の古代の村です。試掘調査では、地面を掘りこんでつくった「竪穴住居」とよばれる家の跡が、62軒も発見されました（写真2）。おそらく広場全体を発掘すれば、その数は100～150軒になるであろうと推定されており、この台地に何世代にもわたって家が建てられ、多くの人々が生活していた、にぎやかな村があったと思われます。

村のはずれには、太くて大きな溝が1本発見されています。村全体を囲っていた堀跡のようで、「環濠」とよばれています。また、台地の西側には、この村に住んでいた人々のお墓があったとも考えられています。そのお墓とは、「方形周溝墓」と呼ばれているもので、一辺が4mほどの方形に溝を掘りこんだもので、まん中に遺体を埋めています。近くでは長尾小学校の下にあたる長尾鯉坂遺跡からも発見されています（写真3）。

村の環境

村がつくられた台地は、多摩川とその支流の平瀬川にはさまれた標高55mの多摩丘陵上の平らな土地で、公園の広場として整備される以前は、畑として利用されていました（写真1）。

この台地のまわりには、自然林としてのシラカシ林が広がっており、村に住んでいた弥生時代の人々は、そのシラカシの実を採って食べたり、シラカシの木を道具の材料として利用していたとも推定され、現在シラカシ林は県の天然記念物に指定されています。

台地の下には小さな谷がいくつも入り、谷頭からは豊富な湧水が湧き出ています。この湧水は古代の人々の貴重な生活用水として広く利用されるとともに、その水を引き込んだ田んぼも作られ始めていたとも考えられています。

村の周辺

東高根遺跡の周辺には、弥生時代から古墳時代にかけての遺跡が数多く点在しています。およそ半径1kmの範囲内だけでも、東側の台地上に緑ヶ丘霊園内遺跡が、東名高速道路をはさんだ西側には、長尾台北遺跡、新林遺跡、下原遺跡、平遺跡、平風久保遺跡などが、さらには公園内のﾋﾟｸﾆｯｸ広場にも弥生時代の村があったようです。まるで、この周辺一帯が、当時の「東高根ニュータウン」といった感じだったかもしれません。

ぜひみなさんも、古代芝生広場の東高根村の上に立って、当時の生活の様子がどんなであったのか想像してみてください。ひょっとすると弥生人に会うことができるかもしれません。